

事務事業評価票 [市単独補助金]

令和 3 年度

担当課 しまばら観光課

基本事項	補助金(事業)名	観光宿泊施設支援事業補助金				整理番号	1606
	根拠法令等	島原市観光宿泊施設支援事業補助金交付要綱				実施を義務付ける規定	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし
	関連する市勢振興計画の基本計画	目標	基本目標3 賑わいと活力を興すまちづくり	予算目	7 款 1 項 3 目	<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 新規	
		施策	施策3-4 訪れてみたい、魅力のあるまち	区分	奨励・助成		

事業の概要等	補助金交付の対象(団体名等)	温泉給湯事業を利用するホテル・旅館 対象4施設	実施期間	始期	平成	23	年度から
				終期	令和		年度まで
	事業の背景及び概要(現状、課題)、または交付団体の活動目的、活動内容など	本市の観光の振興を図り、観光産業の存続及び雇用の場の確保を図ることを目的とし、温泉給湯事業を利用する宿泊施設を運営する者が行う観光振興に寄与する事業に対して補助を行っている。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度以降、市内すべての宿泊施設の利用者が減少しており、先行きが見通せない現状では事業の存続は必要と考える。					
	目指す成果 (交付対象団体等をどのような状態にしたいのか)	本市の観光資源である温泉を活用した観光振興を図り、一般観光客の誘客はもとより、スポーツキャンプ誘致の受け皿としての温泉宿泊施設、併せて雇用の受け皿としての存続は必要不可欠。また、地元の食材の提供等、地産地消も推進しており、経済効果も多方面に見込まれる。					
補助金交付内容等 (積算基礎等)	予算の範囲内において、当該年度の供給量に係る温泉使用料のうち納付した額の2分の1を上限としている。 令和元年度から市の厳しい財政事情を踏まえ、10分の4に相当する額を支援している。 各ホテルの温泉供給量×620円×365日(令和5年度、9年度は366日)×1.1(消費税率)×4/10 ※要綱により算出額の1,000円未満切り捨て ※令和2年度温泉供給量：(東洋ベイ九十九36㎡) (南風楼54㎡) (海望荘18㎡) (シーサイド54㎡)						

事業費等の推移	区分	年度				
		29年度 実績	30年度 実績	1年度 実績	2年度 実績	3年度 予算額
	補助金交付額(千円)	18,478	18,695	15,135	13,069	16,128
	① 団体等事業費(千円)	194,586	170,736	169,043	87,454	119,305
	② 歳入内訳(千円)					
	会費等					
	前年度繰越金					
	市補助金	18,478	18,695	15,135	13,069	16,128
	その他の助成金					
	その他雑収入					
	次年度繰越金(②-①)	-	-	-	-	-

2年度の当該団体等の事業費の主な内訳(市補助金が充当されていると思われるものから順に記載)(単位:千円)

項目	金額	項目	金額
食材仕入	51,513		
販売促進費	17,084		
広告宣伝費 ほか	18,857		

補助金の使途についての特記事項等	
------------------	--

◎1次評価(自己評価)

○視点的別分析		
視 点	現 状 分 析	説 明
① 助成事業の効果	<input type="radio"/> 意図した効果があがっている <input checked="" type="radio"/> ある程度効果がある。 <input type="radio"/> あまり効果がない <input type="radio"/> 分析できない <input type="radio"/> 事業効果は後年度	新型コロナウイルス感染症の影響により、観光業にとっては厳しい情勢であるが、観光産業の存続及び雇用の確保にとって一助を担っているものと分析している。
② 市の関与の必要性	<input checked="" type="radio"/> 必要性は薄れていない <input type="radio"/> 少し薄れている <input type="radio"/> 薄れている <input type="radio"/> 不明 <input type="radio"/> 該当しない	本市の観光振興のため、対象となる4施設においては、それぞれ趣向を凝らした商品企画・販売により誘客に努めており、雇用はもとより経済効果も見込まれる。特に新型コロナウイルス感染症による昨今、経営に影響を及ぼす恐れがあることから、同事業の存続は必須と思われる。
③ 団体の事業内容や助成の在り方等の見直しの必要性	<input type="radio"/> 見直しの必要はない <input checked="" type="radio"/> 検討の余地はある <input type="radio"/> 見直しの必要あり	温泉給湯事業審議会において、温泉給湯事業の安定的な運営のためには普通供給の存続は必要不可欠であり、当面、継続するとの意見あり。今後、温泉給湯事業の運営状況も見ながら、令和14年度を目途に温泉使用料と併せて見直しを行いたい。

○総合評価と今後の方向性		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">総合評価</div>	判定 <input checked="" type="radio"/> A 継続(特段の見直しは行わない) B 見直しのうえで実施 <input type="radio"/> B1 事業規模の拡大 <input type="radio"/> B2 事業規模の縮小 <input type="radio"/> B3 事業内容の改善 <input type="radio"/> B4 その他の見直し <p style="text-align: right;">休止・廃止の具体的方向性</p> <input type="radio"/> C 休止(隔年実施など) → () <input type="radio"/> D 廃止(終期の設定も含む) → ()	
	判定理由 一般観光客の誘客及びスポーツキャンプ誘致の受け皿など本市観光の振興を図る上で温泉宿泊施設の存続は必要不可欠。また、温泉給湯事業の安定的な経営という観点からもホテル・旅館からなる普通供給の存続は必要。併せて、新型コロナウイルス感染症の影響から宿泊業の経営が厳しい状況であり、支援継続は必要と判定する。	
今後の課題と見直しの方向性(総合評価判定がB1～B4の場合)	課題 見直しの方向性	

◎2次評価

判定	B4見直しのうえで実施 ⇒ その他の見直し
備考	観光振興を図るうえで、温泉宿泊施設の存続は必要ではあるが、温泉宿泊施設のみへの経済的支援は、他の宿泊施設との公平性の観点から疑問が残る。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、宿泊業の経営が厳しい状況下にあるため現行のまま継続とし、今後の状況好転に向けて事業終期の判断基準を明確化すること。

◎3次評価

判定	B3見直しのうえで実施 ⇒ 事業内容の改善
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事業名称と補助対象経費の内容について整合性がとれた制度としていただきたい。 ・本市における温泉の必要性を認識し、温泉給湯事業に対して費用負担を行っている事業者や個人の納得が得られるよう透明性と公平性の観点からも整理検討が必要である。

評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況 (☑)	
☑ 補助額の削減 <input type="checkbox"/> 補助額の増加 <input type="checkbox"/> 補助の休止若しくは廃止 <input type="checkbox"/> 現状維持 ⇒ 予算措置額の増減 -1,346 千円	
備考	